

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 1 日現在

機関番号：24301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520102

研究課題名（和文） 日本に伝来する中国明代製の花鳥獣文様染織品の変遷と国際展開

研究課題名（英文） The Transition and International Expansion of Textiles with Flower, Bird and Animal Designs Produced in China in Ming Dynasty

研究代表者 吉田 雅子 (YOSHIDA MASAKO)

京都市立芸術大学・美術学部・准教授

研究者番号：40405238

研究成果の概要（和文）：中国で明代を中心に制作され、日本に舶載された花鳥獣文様染織品を調査し、天地ある構図から四方向きの構図が展開された可能性が高いことを論証した。また、日本伝存作品とヨーロッパやアメリカに残る作品、及びインド、アンデスで作られた作品を比較し、リスボンに残る品は中国製品をヨーロッパ人がコピーしたものであることを論証し、中国で制作されたこれらの図様が海外で受容され、現地の文化と折衷されていった様態を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：I have researched textiles with flower, bird and animal designs produced in China mainly in Ming Dynasty, and traded to Japan, and estimated the high probability that four-directional composition was developed from top and bottom composition. I also compared pieces transmitted in Japan, Europe, and The U.S., as well as the pieces produced in India and Andes area, and clarified that the piece in Lisbon is European production copying Chinese original, and Chinese designs were accepted in foreign countries to produce eclectic images of each culture.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	25,000,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、美学・美術史

キーワード：美術史

## 1. 研究開始当初の背景

以前、科学研究費補助金（若手研究、スタートアップ、「本圀寺と西教寺に伝来する花鳥獣刺繍に関する研究」、平成 18—19 年）を受けた。スタートアップの研究期間が終了し

た後も私はこの主題に発展的に取り組み、その成果をまとめて 2012 年にブリュッセルの Centre International d'Etude des Textiles Anciens (C. I. E. T. A.)（国際染織学会）において発表した。発表は好評を博し

て反響を呼び、複数の研究者から関連作例の情報提供を受け、新たな作例の所在を知った。このような経緯の結果、今まで以上に大きなスケールで、この種の作例の図様の変遷や国際展開を明らかにしたいと考えるに至った。

## 2. 研究の目的

日本に伝来する中国明代製の花鳥獣文様が表された染織品を主題に取り上げ、その表現がどのように変遷し、国際的に展開されていったのかを明らかにすることを、本研究の目的とする。具体的には、日本、ヨーロッパ、アメリカに伝存する関連作例を調査し、それらの比較分析を通して、これらの作例の図様の展開、交易や需要の様態を明らかにしたい。そして、大航海時代の東西交流史上における異文化間の影響関係を、染織という切り口から照らし出したい。

これらの作例は、天地のある構図のものと、四方向きの構図のものに大別できる。天地のある作例は、中国の伝統図様に近く、原型を比較的よく保持している。これらに関しては、日本国内の伝世品を中心に比較調査を行う。

これに対して、四方向きの構図の作例は、図様の原型から離れ、輸出先の嗜好に合わせて構図が組み替えられている。これらに関しては、日本、ヨーロッパ、アメリカに伝来する品を中心に比較調査を行う。

## 3. 研究の方法

研究の方法は、国内及び海外の実物作品の調査を主体とし、以下の調査・分析方法を用いる。

### (1) 調査先において

① 20-40倍の顕微鏡を用いて織物と刺繍に用いられている材質、繊維（撚り方向）、織物組織（種類、打ち込みの密度）等を観察し、データをとる。カメラにマクロ・レンズをつけ、織物組織と刺繍糸の材質と技法的特徴を記録

する。

② 図様を詳細に観察して記録する。カメラに通常のレンズをつけ、全図や図様の細部を撮影する。

③ 可能であれば、はずれている繊維をサンプルとして収集する。

### (2) 京都市立芸術大学において

① 調査結果をコンピューターに入力して整理する。

② 図様、織物組織、繊維の画像をコンピューター上で拡大し、細部の状態を観察する。

③ 収集した繊維のサンプルを100-500倍の顕微鏡でさらに詳細に調べる。

### (3) 関連史料の調査に関して

先方の博物館で、調査作例に関する情報をできる限りヒアリングする。関連する史料が出てきた場合はそれを入手し、読み込んで作品の位置づけを考察する。

調査先は以下である。22年度は、譲伝寺（鳥取）、臨濟寺（静岡）、黒川古文化研究所（兵庫）、松坂屋（京都）で、中国で明～清に制作されて日本に舶載された花鳥獣刺繍の染織品を調査する。またニューヨークのメトロポリタン美術館において、この種の花鳥獣刺繍と、関連作例を調査する。

23年度は、スウェーデンの博物館（Arme Museet, Malmö Museet, Uppsala Domkyrkoplan, Ethnografiska Museet, Ostasiatiska Museet, Statens Historiska Museet）において、花鳥獣刺繍を初めとする中国製の輸出用染織品を調査する。また、国内では、大津祭の龍門滝山、源氏山、殺生石山（以上、滋賀県）と輪王寺（栃木県日光）において花鳥獣刺繍を調査する。

24年度は、祇園祭の孟宗山の花鳥獣刺繍を調査する。

#### 4. 研究成果

本研究の調査対象は、主に国内作品と海外作品に分けられる。国内作品は、寺院に伝来するものと、祭礼に伝来するものに大別できる。

(1) 国内の寺院に伝来する作品に関する代表的成果は、以下である。

①鳥取県気高郡鹿野町の譲伝寺には、天地のある構図の作が伝来している。この品は亀井慈矩が文禄の役で入手して寄進したという伝承がある。表現形式、物性、残存記録を検討した結果、文禄の役の伝承は後世の意図的な書き換えの可能性が高いこと、慈矩が寄進に関与したことはほぼ確実であることが判明した。この作例は、海外にあるこの種の作品を考察する上で基準作となり得るもので、その推定寄進年は、天地がある構図のうち最も早く大変貴重であることが明らかになった。

②栃木県鏝阿寺や京都市知恩寺に伝来する作品は、中心に瑞鳥、小鳥、花が配されている。この鳥は、一見中国の瑞鳥に見えるが、詳細に検討すると、そのモデルになったのはヨーロッパのPelican in Her Pietyというキリスト教の図像である。これらの作品を含む計6点の、16-17世紀を中心に中国で制作されたヨーロッパ輸出用染織品を分析した。その結果、共通する特徴として、ヨーロッパ輸出处中国・インド製品と意匠が類似していること、大半の意匠は欧州のものを下敷きとし、中国の表現に類似する要素がしばしばみられることが明らかになった。

(2) 国内の祭礼品に関する代表的成果は、以下である。

①近年、松坂屋の蔵から、花鳥獣文様の函谷鉢の見送が発見された。これとは別に函谷鉢

の蔵に長らく眠っていた花鳥獣文様の水引を比較することにより、これらは中国の広州で制作された四方向き構図の作品の断片で、見送は明末清初、水引は清朝の作であることを論証した。さらに、ヨーロッパ向けの文物が京都の町人階級により受容された様態、それが松坂屋の蔵に入った経緯を明らかにした。

②大津祭の殺生石山の胴掛、龍門滝山の前掛と胴掛、源氏山の前掛と胴掛は、天地ある構図の貴重な作である。制作当時の構図がわからないため、復元図を起こしたところ、この構図は絵画に用いられた伝統構図の下方に動物のモチーフを付加したものであることが判明した。

源氏山の胴掛(右)は、天地ある構図をとっているが、四方向き構図に配されるモチーフのすべての要素が含まれている。この作品は、天地ある構図のモチーフを中心から四方に向かうように発展的に配置すると、四方向き構図になることを示唆している。

日野祭の岡本町の見送は、天地ある構図を綴織で表した作として、極めて貴重である。織り出されている獅子はヨーロッパのライオンの図像の影響を受けており、この種の図像の形成にヨーロッパ勢力が関与していたことを示唆している。

龍門滝山の前掛、胴掛、後掛には、文政捨二(1829)年新調の墨書、また、日野祭岡本町の見送には文化丙寅(1806)年の墨書があり、これらの作が19世紀初頭に祭礼町に流れて来たことがうかがわれる。これらの品は、日本に舶載された後長らく伝存され、その後19世紀になって何らかの事情で売りに出され、大津や日野の富裕町人の手に落ちて彼らが主催する祭礼に供されて、今日に至ったものと考えられる。

(3) 海外作品に関する代表的成果は、以下である。

①リスボンのセント・シルバ財団に、花鳥獣文様の刺繍布が収蔵されている。この作は長らく中国製と考えられてきた。これに対し、まず、日本の黒川古文化研究所に伝存する花鳥獣刺繍布を調査し、黒川の作品はこの種の作例の中ではやや異例な品で、基準作である西教寺の作より遅い時代に作られたことを明らかにした。その上で、基準作である西教寺の作、それより作期が遅い黒川古文化研究所の品、その他の日本伝存品を比較対象に用いて、リスボンの作例を考察した。その結果、リスボン作品は定説のような中国製ではなく、それをコピーした欧州製の可能性がきわめて高いことを論証した。そしてこの図様がヨーロッパに至り、それがヨーロッパ人の工匠によって吸収されて、現地の表現と折衷した様相を明らかにした。

②2013年秋にニューヨークのメトロポリタン美術館で、染織品を通して国際交渉史を俯瞰する大型展覧会”Interwoven Globe”が開かれる。大航海時代に海のシルクロードの文物が日本に流入して残っていることは、世界ではあまり知られていない。閉ざされた日本の収蔵品情報を世界に向けて発表してほしいという美術館からの要請を受け、この展覧会のシンポジウムにおいて招待講演を行うことになった。

講演では以下を発表する予定である。日本の寺院や祭礼に蔵されている花鳥獣の文様の作例を紹介し、メトロポリタン美術館の作例も日本に伝来する品と同じグループに属することを明らかにする。それらの制作年代を推定し、これらの作品のいくつかはまず日本に舶載され、その後アメリカに流れて、メトロポリタン美術館に寄贈された可能性が

高いことを指摘する。

そして、これらが中国の広州で制作され、大航海時代の交易網を通してアジアのみならず、インド、ヨーロッパ、アンデスにまで運ばれ、様々な文化圏に受容され、現地の美術様式と折衷した作品が制作された様相を明らかにする。

通常の学会発表は研究者向けで、その情報は一般の観客には伝わらないが、メトロポリタン美術館の展覧会とシンポジウムには、研究者とともに一般の観衆が全世界から集まってくる点に特色がある。この展覧会は、いままで国別に研究されてきた染織品を地球規模の文化活動としてとらえ直すものであり、この展覧会のシンポジウムにおいて、閉ざされていた日本の研究情報を世界に向かって幅広く発信することに意義がある。

今後は、スウェーデンで調査した作品に関して論文を執筆し、このテーマをさらに広げて考察して行く予定である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

①吉田雅子、祇園祭の函谷鉦の花鳥獣刺繍見送と水引、民族芸術、査読有、2013年3月29号 pp. 154-164

②吉田雅子、日本に舶載された欧州輸出用の中国製染織品—刺繍ビロード6作品の意匠と技法を中心に、人文学報、査読有、2012年、102号、pp. 1-22

③吉田雅子、中国における合糸・撚糸装置の展開、京都市立芸術大学研究紀要、査読有、2012年3月56号 pp. 25-38

④ 吉田雅子、譲伝寺と臨濟寺に伝来する花鳥獣文様刺繍布-生産地・制作年代・記録・墨書・伝来の検討、京都市立芸術大学研究紀要、査読有、2011、55号、pp.3-15

〔学会発表〕（計2件）

① Masako Yoshida, The International Expansion of Textiles with Flower, Bird and Animal Designs, Symposium of “Interwoven Globe” Exhibition, 2013, October 4, The Metropolitan Museum of Art

② 吉田雅子、黒川古文化研究所の花鳥獣文様刺繍布が語りかけることーその制作時期及びリスボンの作例の新たな位置づけ、民族芸術学会、2011年6月25日、大阪市立東洋陶磁美術館

〔図書〕（計2件）

① 祇園祭山鉾連合会、祇園祭山鉾連合会、京都近郊の祭礼幕調査報告書ー渡来染織品の部、2013年、pp.24-50; 60-75; 76-83

② 祇園祭山鉾連合会、祇園祭山鉾連合会、祇園祭山鉾懸装品調査報告書ー渡来染織品の部、2012年、pp.154-157

〔その他〕  
ホームページ等

① 吉田雅子、東西芸術の窓、タペストリー、京都新聞、文化欄、2012年5月28日

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

吉田 雅子 (YOSHIDA MASAKO)  
京都市立芸術大学・美術学部・准教授  
研究者番号：40405238